

令和7年度串本町病院事業改革評価委員会の評価結果及び意見について

令和5年度に策定した「くしもと町立病院経営強化プラン」は、令和5年度から令和9年度までの5年間を計画期間として策定したものです。当評価委員会は、経営強化プランの進捗状況等を確認する場となっており、今回は計画の2年度目にあたる令和6年度の取組状況を確認する会議となります。

令和8年3月26日に行われた標記委員会において、事務局から以下の内容が報告されました。

令和6年度は経常収益において、計画値を1億4,955万円上回り達成となっておりますが、串本町一般会計から資金不足発生を防ぐための繰入金として1億9,285万円をいただいたことによるものです。

収益面では、医業収益で入院収益の増加などにより、計画値を5,132万5千円上回り達成となっております。

費用面では、医業費用で1億2,150万5千円、経常費用で1億2,934万1千円上回り未達成となっております。主な要因は、人事院勧告や会計年度任用職員の勤勉手当支給開始による職員給与費の増加、建物及付属設備修繕費の増加、勤怠管理システム導入費などの委託料の増加、がん治療薬や新型コロナウイルス感染症関係の材料費などの増加によるものです。

医業収支比率は、計画値を2.0ポイント下回っています。

修正医業収支比率は、計画値の計算方法に誤りがあったため、正しくは計画値が75.1%となり、実績値の73.2%と比較し1.9ポイント下回っています。

資金不足額及び資金不足比率は発生していません。

「役割・機能の最適化と連携の強化」のうち医療機関や医療の質、連携の強化等に係る数値目標は、救急搬送受入患者数以外の項目で計画値を下回ったものの、昨年度と比べ入院と外来の診療単価が増加し、医業収益は計画値を上回っています。また、入院患者数は、目標値には至らなかったものの昨年度と比べ380人増加しています。

「経営の効率化等」のうち経営指標に係る数値目標では、資金不足発生を防ぐため繰入金をいただいたことにより他会計負担金が増加したことで、経常収支が計画値を上回ることとなりました。医業収支比率や対医業収支比率は、人事院勧告や会計年度任用職員の勤勉手当支給開始による職員給与費の増加などにより医業費用が増加しており、医業収益の増加を医業費用の増加が上回ることになり、未達成となりました。診療単価については、入院全体では計画値を上回り達成となり、外来においても達成となっていま

す。職員数や医師数は、計画値を達成しています。企業債残高は、元金償還において計画値よりも元金償還がすすんでおらず未達成となっています。民間的経営手法の導入において、経営分析サービスを活用した経営分析を行っています。また、管理者会議における決定事項を全医師及び各部署長が出席する病院運営協議会で報告するとともに、随時、経営状況を報告して問題意識の共有を図っています。事業規模・事業形態の見直しにおいては、令和5年10月に療養病床4床を介護医療院へ転換し、令和6年度においても療養病床20床と介護医療院14床で継続しています。さらなる病床の削減や転換については、慎重に検討を行っています。経費削減・抑制対策では、材料費において、在庫の医薬品の使用期限の管理を徹底し、薬品の廃棄が起こらないよう努めており、他の診療材料についても安価なものに置き換えることや交渉をおこなうことにより価格抑制に取り組んでいますが、がん治療薬や新型コロナウイルス感染症関係の費用が増加するなど、前年度を上回り、収支計画の計画額と比べても未達成となっています。経費において、契約の見直しを行うなど委託料の削減に取り組んでいますが、勤怠管理システムの導入や公営企業会計システムのクラウド移行などの費用が増加し、委託料は前年度を上回り、電気代の増加により、光熱水費も前年度を上回るなど収支計画の経費の額と比べ、未達成となりました。医療機器等購入費は、購入する医療機器等の精査を行い、削減に取り組んでいます。収入増加・確保対策については、手術件数が主に外科手術の減少により計画値を下回ったものの、前年度と比べ3件増加しています。一般病床の病床利用率についても、計画値を下回ったものの、前年度を上回っています。紹介率は、内科や整形外科の紹介患者数が前年度より減少したことなどから、前年度を下回っております。

「医師・看護師等の確保と働き方改革」では、当直応援医師を確保し、研修医7名を受け入れております。また、通信機能付きバイタル機器による電子カルテ入力作業の効率化など病棟業務の効率化を行っており、院外閲覧端末を導入するなど当直医師の負担軽減に取り組んでいます。

「経営形態の見直し」では、事業形態の見直しとして、令和5年度に療養病床4床を介護医療院へ転換し、令和6年度はこれを維持しました。

「新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」では、感染対策委員会を設置しています。また、令和6年1月31日に、和歌山県との間で医療機関措置協定を締結しています。

「施設・設備の最適化」については、建設改良費において、計画値を下回りました。予算編成の段階で医療機器の更新・新規導入の選択と経費抑制・削減に努めています。また、デジタル化への対応として、令和6年度に勤怠管理（出退勤記録）システムやWeb給与明細システムを導入しました。

収支計画については、計画値と比べ、医業外収益の他会計負担金が3億8,500万円に増加したことなどから、経常損失が計画値と比べ2,000万円少ない1,700万円となり、累積欠損金は1億8,300万円となりました。

各委員からの主な質疑・意見は次のとおりです。

○経常損益について

このようになっているが、串本町からの繰入金があつてこの額になっているということか。

(回答) 経常損益のマイナス17百万円には、串本町一般会計から資金不足発生を防ぐための繰入金としていただいた額を含めています。繰入金がなければ経常損益はもっと悪い数値となります。